

# 意図せぬ成功としてのセレンディピティの認知に関する研究

～コミュニティ・イノベーションを促進するための実証研究～

小野寺哲夫（東京保健医療専門職大学准教授）

遠藤哲哉（青森公立大学教授）

## 論文要旨

本研究の目的は、リサーチクエスション①のセレンディピティと意図した成功に対してなされた原因帰属には、どのような違いがあるのか？とリサーチクエスション②のセレンディピティ・マインドセットと、幸運信念、超常現象信奉度、陰謀論的信念の間にはどのような関連性があるのか？という2つのリサーチクエスションに答えることである。さらに、これらがコミュニティ・イノベーションや地域経営に対してどのような含意を持ちうるのか等について考察することである。

研究方法は質問紙法で、研究協力者は都内専門学校生 116 名（平均年齢=36.69 歳）であった。質問紙の構成は、フェイスシート、セレンディピティ・マインドセット尺度、幸運信念尺度、非合理現象信奉尺度、青年期陰謀信念質問票(ACBQ)、そしてワイナー原因帰属研究の方法論を用いた、①セレンディピティと②意図した成功場面を描写した 200～300 字程度の架空物語を作成し、研究協力者に提示し、帰属評価してもらった。

分析の結果、RQ1 については、①セレンディピティは意図した成功よりも、当初の意図通りではなく、②予測できないと知覚され、③統制可能性も低いと評価される一方で、④努力（忍耐）の影響と、⑤運や偶然の影響をより多く受けると評価されることが示された。RQ2 については、セレンディピティ・マインドセット尺度と、超常現象信奉度、青年期陰謀信念尺度、幸運信念尺度との間で有意な正の相関が認められた。

本研究の結果は、地域経営に対するコミュニティ・イノベーションにおけるセレンディピティが果たす役割という観点からの多様な応用研究への可能性が示唆された。コミュニティ・イノベーションは、既存のセレンディピティ研究が示しているように、地域経営におけるコミュニティ・イノベーションが偶然によってもたらされる側面があり、本研究は、そのことの可能性を踏まえ、認知的側面からアプローチしたものである。

キーワード：セレンディピティ、コミュニティ・イノベーション、地域経営、陰謀論

## 1. はじめに

### 1.1 ドラッカーのイノベーションを促進する意図せぬ成功について

偶然や意図せぬ結果 (unintentional consequence) が組織やコミュニティ・イノベーションに大きく関わることもある。そのような現象は、特にセレンディピティ (Serendipity) と呼ばれる。また、著名な経営学者ピーター・F・ドラッカー (Peter Ferdinand Drucker) は、『イノベーションと企業家精神』の中で、「予期せぬ成功ほど、イノベーションの機会

となるものはない」という表現で、予期せぬ成功がイノベーションにつながることを説いた。ドラッカーは、イノベーションのほとんどが7つの機会によって起こされていることを発見し、「イノベーションの7つの機会」として体系化した。具体的には、第1の機会「予期せぬ出来事」、第2の機会「ギャップを探す」、第3の機会「ニーズの発見」、第4の機会「産業構造の変化」、第5の機会「人口構造の変化」、第6の機会「認識の変化」、第7の機会「新しい知識の活用」である。ドラッカーは、これらの潜在的なイノベーションの可能性の機会について、1つずつ紐解いているのであるが、本稿の目的に照らせば、議論を第1の機会「予期せぬ出来事」に絞っていくことにする。ドラッカーは、上記の著書の中で、「予期せぬ出来事」を「組織内の日常業務や地域社会、および世の中で起きる出来事の中でも、良くも悪くもイレギュラーに起こる不測の事態であるとし、さらに、「予期せぬ出来事」には以下の3種類があるとした。1つは、「予期せぬ成功」であり、予想していなかったにもかかわらず起こってしまった成功であるとした。例えば、思わぬ顧客の獲得であるとか、予想もしていなかった成果が出てしまったといった場合であり、これがイノベーションの機会となるとした。2つは、「予想せぬ失敗」であり、当然、ヴィクトール・フランクル (Viktor Emil Frankl) が開発した逆説志向 (paradoxical intention) (注1) でもない限り、誰も意図的に失敗しようとはしないと思われる。しかし、ドラッカーによると、この予期せぬ失敗が、イノベーションの機会になるという。例えば、予期せぬ失敗の代表例は、おそらく顧客からのクレームであろう。入念に準備されて開発された新製品にもかかわらず、思わぬクレームが出てしまった場合などは、予期せぬ失敗である。しかし、このクレームに謙虚に耳を傾けて製品を改善することによって、逆に思いも寄らなかった画期的な製品が生まれたという話は比較的よく耳にするが、これもイノベーションの機会である。そして、3つが、「外部の予期せぬ出来事」である。これは、企業や産業、市場などの外部で発生する予期せぬ出来事であり、異業種での出来事、あるいは他地域や他国で起こった出来事を、自分の会社や産業、市場にとってのイノベーションの機会にしてしまうことである。このように、意図せぬ出来事には3つのバリエーションがあり、それぞれがイノベーション創出の大きな機会を提供しているのである。

## 1.2 成功と失敗の4分類と意図せぬ成功としてのセレンディピティについて

本研究では、ドラッカーの言う「予期せぬ成功」「予期せぬ出来事」という用語を、「意図せぬ成功 (unintentional success)」あるいは「意図せざる成功」と読み替えて、通常のいわゆる「意図した成功」と区別した。以下に、「意図した成功」と「意図した失敗」、および「意図せぬ成功」と「意図せぬ失敗」を表1に整理した。

表1 成功・失敗×意図的・非意図的の2軸からなる「結果」の4分類

	成功 (good consequence)	失敗 (bad consequence)
意図的 (意図した) intentional	意図した成功 いわゆる通常の成功	意図した失敗 逆説志向 (故意に間違える)
非意図的 (意図せぬ) unintentional	セレンディピティ 意図せぬ成功	想定外・ありえない失敗 意図せぬ失敗

表1より、①意図した成功、②意図した失敗、③意図せぬ成功（セレンディピティ）、④意図せぬ失敗の4分類が得られる。これらの4分類の中でも、意図せぬ成功としてのセレンディピティに焦点を当てていく。

セレンディピティ (serendipity) とは、医学や科学分野でしばしば起こる偶然的大発見のことで、「予想外のものを発見することや、何かを探しているときに探しているものとは別の価値があるものを偶然発見すること」などを意味する。

そもそもセレンディピティという言葉の由来（注2）は、1754年にイギリスの政治家・文筆家であったウォルポール (Horace Walpole) が友人のマンに宛てた手紙の中で初めて使ったと言われている。語源は『セレンディップと3人の王子』という童話集 (Cristoforo Armeno, 2000) に出てくる「セレンディップ」という国名を変形させて作ったものだとされている。社会学者で「意図せざる結果」の概念で有名なロバート・マートン (Robert K. Marton) (注3) は、セレンディピティ概念に注目し、研究書を1冊書いている。マートンは、科学の大きな進歩が、研究者の当初の計画とは離れたところで見られることに気が付いた。そして、その進歩・発見に作用している力はウォルポールがセレンディピティにおいて重要性を指摘していた「偶然」と「洞察力」であると考えた。ちなみに、マートンにとって、意図せざる結果とは、諸個人の行為が集積された結果、その主観的意図とは異なる現象が生じることを意味する。つまり地域社会における無数の諸個人の行為が集積されることによって、意図せぬ成功としてのコミュニティ・イノベーションが創出されるということが含意されるのである。

### 1.3 志賀によるセレンディピティの包括的モデルについて

さて、セレンディピティ研究の第一人者であった志賀 (2019) (注4) は、セレンディピティに関する古典的文献と現代的文献を一通り渉猟した上で、セレンディピティの核心的要素を「偶然 (の結果)」を「洞察」することによる発見であると考えながらも、偶然の前段階である「目的意識・仮説構築、観察・実験」もセレンディピティの重要な構成要素であるとして、より包括的なモデルを明示している (図1) (志賀, 2019)。

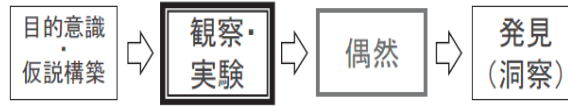


図1 志賀によるセレンディピティプロセスモデル

セレンディピティ文献（特に、Christian Busch, 2022）によると、一見「無関係に見えるものの中に関係性を見出す」というのがセレンディピティの大きな特徴であることが指摘されているが、これと同様の特徴が陰謀論や迷信の信念においても指摘されている。社会心理学者で、陰謀論研究の第一人者ヴァン・プルイジェンによると、陰謀論についての信念の特徴としてパターン認識（pattern perception）を指摘している。パターン認識とは、人間の心が点と点を結びつけ、人、物、出来事の意味のある因果関係を知覚する傾向のことである。また別のところでは、陰謀と超自然的信念の根底にあるセンスメイク機能は類似しているとも述べている。このような指摘から、陰謀論的信念や超常現象（迷信）信奉、および幸運信念とセレンディピティの間には何らかの関連性が認められるのではないかと仮説する。以下に、本研究のリサーチクエスチョンを示す。

## 2. 目的

### 2.1 本研究のリサーチクエスチョンについて

【リサーチクエスチョン①】：意図せぬ成功（セレンディピティ）と意図した成功に対してなされた原因帰属（認知）には、どのような違いがあるのか？

【リサーチクエスチョン②】：セレンディピティ・マインドセット（思考）と、幸運信念、超常現象信奉度、陰謀論的信念の間にはどのような関連性があるのか？

### 2.2 本研究の目的について

本研究の目的は、【リサーチクエスチョン①】と【リサーチクエスチョン②】について実証的に検討することである。加えて、これらのリサーチクエスチョンの検討を通して得られた知見が、コミュニティ・イノベーションや地域経営に対してどのような含意を持ちうるのか等について考察することである。

## 3. 方法

調査協力者：都内専門学校生 116 名（男性：28 名，女性：88 名），平均年齢=36.69 歳，SD=12, 35）  
 質問紙法：質問紙の構成は、フェイスシート（年齢，性別，所属学科）、セレンディピティ・マインドセット尺度（Busch, 2020）、幸運信念尺度（Belief in Good Luck: BIGI）（短縮版）（Darke & Freedman, 1997）、非合理現象信奉尺度（丹治, 2000）、青年期陰謀信念質問票（Adolescent Conspiracy Beliefs Questionnaire: ACBQ）（Jolley, Daniel et.al., 2021）である。

成功と失敗についての社会心理学者ワイナー（Bernard Weiner）原因帰属理論研究の方

法論 (Weiner, 1995, 小野寺, 2008) (注 5) を用いて、①セレンディピティ (意図せぬ成功) と②通常の成功 (意図した成功) 場面を描写した 200~300 字程度の架空物語 (ヴィネット) を作成し、①②のうちのどれか 1 つを調査協力者に提示し、帰属評価してもらった (付録 I 参照)。

得られたデータは PC 入力され、SPSS ver. 11 で統計的に解析された。

倫理的配慮: 本研究は、東京保健医療専門職大学の倫理審査委員会の承認を得ている (承認番号 TPU-00-027)。なお、開示すべき利益相反 (COI) はない。

## 4. 結果

### 4.1 実験 2 条件間における帰属評価項目について対応のない $t$ 検定結果

全体データにおける実験 2 条件 (意図せぬ成功 (セレンディピティ) 条件と意図した成功条件) 間における帰属評価項目 (付録 I 参照) において対応のない  $t$  検定で検討した。その結果、いくつかの帰属評価項目において、統計的な有意差が認められた (表 2)。

表2 全体データにおける実験2条件間における帰属評価項目についての対応のない  $t$  検定結果※1 ※2 ※3

	実験2条件	$N$	平均値	標準偏差	$t$ 値 ( $df = 80$ )	有意確率 (両側)
当初の意図通りだったか	成功	34	4.82	2.18	3.356	0.001 ***
	セレンディピティ	48	3.21	2.12		
主観的成功度合	成功	34	6.71	0.58	2.502	0.014 *
	セレンディピティ	48	6.21	1.05		
原因帰属①: 内的帰属	成功	34	5.41	1.10	2.067	0.042 *
	セレンディピティ	48	4.67	1.88		
原因帰属⑤: 努力(忍耐)帰属	成功	34	6.29	1.29	-1.780	0.079 †
	セレンディピティ	48	6.67	0.56		
原因帰属⑧: 予測(予見)可能性	成功	34	4.82	1.49	5.408	0.000 ***
	セレンディピティ	48	2.83	1.74		
原因帰属⑩: ポジティブ感情体験	成功	34	6.53	0.71	2.246	0.027 *
	セレンディピティ	48	6.00	1.24		

※1 total  $n = 82$ . ※2 †  $p < .10$ , \*  $p < .05$ , \*\*\*  $p < .001$

※3 紙幅の都合で、有意差の認められなかった項目は表2から削除された。

表 2 より、得られた成功が「当初の意図通りだったか」については、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に低かった ( $t(80) = 3.356$ ,  $p = .001***$ )。すなわち、セレンディピティ条件においては、得られた成功は、当初の意図通りではなかったと評価されていた。主観的成功の認知については、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に低かった ( $t(80) = 2.502$ ,  $p = .014*$ )。すなわち、セレンディピティ条件においては、主観的成功の認知においては、意図した成功条件よりも低く評価されていた。しかし有意差が認められたとはいえ、両条件の数値は、リカート 7 件法において 6 点を越

えており、両条件とも成功であると認知されていたことには変わらない。帰属次元の1つである内的帰属項目においては、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に低かった ( $t(80)=2.067, p=.042^*$ )。すなわち、セレンディピティ条件においては、得られた成功の原因がより少なく能力や才能などの内的原因に帰属されていた。しかし、数値を見ると4.67と、7件法で4点を越えていることから(得点が高いほど内的帰属を意味する)、セレンディピティ条件において、得られた成功という結果の原因が外的帰属されたとは言い難い。努力(忍耐)帰属項目においては、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に高い傾向が認められた ( $t(80)=1.780, p=.079^\dagger$ )。すなわち、セレンディピティ条件においては、得られた成功の原因は、より多く努力(忍耐)のせいだと帰属されていた。予測(予見)可能性については、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に低かった ( $t(80)=5.408, p<.001^{***}$ )。すなわち、セレンディピティ条件においては、得られた成功がより少なく予測(予見)できたと帰属されていた。すなわち、セレンディピティ(意図せぬ成功)は予測・予見できないものであると認知されていた。ポジティブ感情については、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に低かった ( $t(80)=2.246, p=.027^*$ )。すなわち、セレンディピティ条件においては、体験されたポジティブ感情が、意図した成功条件よりも少ないことが示された。とはいえ、両条件とも6点以上であることから、セレンディピティであろうと、意図した成功であろうと、成功した場合には多くのポジティブ感情を体験することが示された。

次に、幸運信念尺度の高群データに絞った場合の同様の分析について報告する(表3)。なぜ幸運信念尺度の高群データなのかというと、詳細な理由については後ほど考察で検討するが、この $t$ 検定による検討を、性差、陰謀論的信念尺度、超常現象信奉度等、あらゆる角度から行った結果、幸運信念尺度の高群のデータを用いたときに、帰属評価項目において、全体データを用いた先述の分析結果と比べて明らかに多くの有意差がはっきりと認められていたからである。

表3 幸運信念尺度の高群における実験2条件間における帰属評価項目についての対応のない  $t$  検定結果※1 ※2 ※3

	実験2条件	N	平均値	標準偏差	$t$ 値 ( $df=30$ )	有意確率(両側)
当初の意図通りだったか	成功	14	6.00	1.36	4.740	0.000 ***
	セレンディピティ	18	2.89	2.14		
原因帰属①: 内的帰属	成功	14	5.43	1.09	3.400	0.002 **
	セレンディピティ	18	3.67	1.68		
原因帰属②: 安定性	成功	14	5.86	1.29	-2.454	0.020 *
	セレンディピティ	18	6.67	0.49		
原因帰属③: 統制可能性	成功	14	5.00	1.47	2.602	0.014 *
	セレンディピティ	18	3.44	1.82		
原因帰属⑥: 運と偶然帰属	成功	14	5.86	0.66	-3.360	0.002 **
	セレンディピティ	18	6.67	0.69		
原因帰属⑧: 予測(予見)可能性	成功	14	5.29	1.64	5.964	0.000 ***
	セレンディピティ	18	1.89	1.57		
原因帰属⑭: 友達としての喜び体験	成功	14	6.00	1.11	-2.735	0.010 *
	セレンディピティ	18	6.78	0.43		
原因帰属⑮: 友達としてのサポート意図	成功	14	5.86	1.03	-1.918	0.065 †
	セレンディピティ	18	6.44	0.70		

※1 total  $n = 32$ .    ※2 †  $p < .10$ , \*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$ , \*\*\*  $p < .001$

※3 紙幅の都合で、有意差の認められなかった項目は表3から削除された。

具体的に見ていくと、得られた成功が「当初の意図通りだったか」については、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に低かった ( $t(80)=4.740$ ,  $p < .001$ \*\*\*)。すなわち、セレンディピティ条件においては、得られた成功は、当初の意図通りではなかったとはっきりと評価されていた。内的帰属項目においては、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に低かった ( $t(80)=3.400$ ,  $p = .002$ \*\*)。すなわち、セレンディピティ条件においては、得られた成功の原因がより少なく能力や才能などの内的原因に帰属されていた。帰属次元の1つである安定性次元については、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に高かった ( $t(80)=2.454$ ,  $p = .020$ \*)。すなわち、セレンディピティ条件においては、得られた成功の原因がより安定的(永続的・一時的でない)であると評価されていた。帰属次元の1つである統制可能性次元については、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に低かった ( $t(80)=2.602$ ,  $p = .014$ \*)。すなわち、セレンディピティ条件においては、得られた成功の原因がより少なく本人にとって統制可能であると評価されていた。換言すると、セレンディピティは、意図した成功よりも、本人にとって統制不可能(コントロール不可能)であると評価されていた。「運と偶然」帰属については、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に高かった ( $t(80)=3.360$ ,  $p = .002$ \*\*)。すなわち、セレンディピティ条件においては、得られた成功の原因がより運や偶然のせいであると評価されていた。予測(予見)可能性については、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に低かった ( $t(80)=5.964$ ,  $p$

く.001\*\*\*)。すなわち、セレンディピティ条件においては、得られた成功がより少なく予測（予見）できたと帰属されていた。友達としての喜び体験（嬉しさ）については、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に高かった（ $t(80)=2.735, p=.010$ ＊）。すなわち、セレンディピティ条件においては、友達が成功したときの喜び（嬉しさ）がより大きいことが示された。とはいえ、両条件とも6点を越えており、セレンディピティであろうと、意図的な成功であろうと、喜び体験が大きいことが示された。最後に、友達としてのサポート意志については、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に高かった（ $t(80)=1.918, p=.065$ †）。すなわち、セレンディピティ条件においては、友達が成功したときに、より多くサポートしてあげたいという意図が大きいことが示された。とはいえ、両条件とも5.5点を越えており、セレンディピティであろうと、意図的な成功であろうと、成功した友達をサポート（応援）してあげたいという意図が大きいことが示された。

#### 4.2 セレンディピティ・マインドセット尺度と超常現象信奉度尺度、超常現象体験度（自己体験）、青年期陰謀信念、幸運信念尺度との間の相関係数の算出

本研究にて使用したセレンディピティ・マインドセット尺度、超常現象信奉度尺度、超常現象体験度（自己体験）、青年期陰謀信念、および幸運信念尺度との間でピアソンの相関係数を算出した。その結果、多くの変数間において有意な相関が認められた（表4）。

表4 セレンディピティ・マインドセット尺度とその他の変数間におけるピアソンの相関係数( $r$ )

	セレンディピティ・マインドセット尺度	平均値	標準偏差
非合理現象信奉尺度:超常現象信奉度	0.213 *	15.36	4.20
青年陰謀信念尺度	0.333 ***	22.38	5.54
幸運信念尺度	0.557 ***	20.71	3.59
超常現象体験度(自己体験)	0.308 ***	2.38	0.95
セレンディピティ・マインドセット尺度	—	127.66	16.35

※1  $n=116$     ※2 \*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$ , \*\*\*  $p < .001$

表4より、セレンディピティ・マインドセット尺度は、超常現象信奉度（ $r=.213$ \*）、青年期陰謀信念尺度（ $r=.333$ \*\*\*）、幸運信念尺度（ $r=.557$ \*\*\*）、および超常現象体験度（自己体験）（ $r=.308$ \*\*\*）との間で、有意な正の相関が認められた。強い相関ではなかったが、セレンディピティ・マインドセットと陰謀論的信念や超常現象信奉度の方に有意な正の相関が認められたことは重要な意味が示唆されたと言える。これまで全く関連性



が指摘されてこなかった、どちらかというところ肯定的概念であるセレンディピティと、どちらかというところこれまで否定的に見られることの多かった陰謀論的信念との間にプラスの関連性があるという結果が示された。

#### 4.3 セレンディピティ・マインドセット尺度の高低群間における帰属評価項目における対応のない $t$ 検定結果

全体データにおいて、セレンディピティ・マインドセット尺度の高低群において、帰属次元の1つである統制可能性次元について対応のない  $t$  検定で検討したところ、有意差が認められた。セレンディピティ・マインドセット尺度の高群は低群と比較して、得られた成功の統制可能性を有意に高く評価した ( $t(80)=2.218, p=.029^*$ )。すなわち、セレンディピティ・マインドセット尺度の高群は低群と比べて、成功という結果に対するコントロール可能性を高く評価していた。つまりセレンディピティ・マインドセット尺度の高群は、自分の成功は自分でコントロールできるとより多く考えていたことが示された。成功に対する努力(忍耐)帰属については、セレンディピティ・マインドセット尺度の高群は低群と比較して、成功の原因としての努力(忍耐)を有意に高く評価した ( $t(80)=2.977, p=.004^{**}$ )。すなわち、セレンディピティ・マインドセット尺度の高群は低群と比べて、成功の原因をより多く努力(忍耐)のせいにしていた。得られた成功に対する結果に対する責任帰属については、セレンディピティ・マインドセット尺度の高群は低群と比較して、成功に対する結果責任を有意に高く評価した ( $t(80)=3.446, p=.001^{***}$ )。すなわち、セレンディピティ・マインドセット尺度の高群は低群と比べて、成功の結果責任をより多く本人の責任に帰属していた。セレンディピティ(意図せぬ成功)としての成功に対する原因帰属としての「努力・挑戦・粘り強さ」について、有意に高く評価した。 ( $t(80)=2.818, p=.006^{**}$ )。すなわち、セレンディピティ・マインドセット尺度の高群は低群と比べて、セレンディピティの原因を「努力・挑戦・粘り強さ」により多く帰属していた。超常現象信奉度については、セレンディピティ・マインドセット尺度の高群は低群と比較して、超常現象信奉度において有意に高かった ( $t(80)=1.984, p=.050^*$ )。すなわち、セレンディピティ・マインドセット尺度の高群は低群と比べて、超常現象をより多く信奉していることが示された。陰謀信念尺度については、セレンディピティ・マインドセット尺度の高群は低群と比較して、陰謀信念尺度において有意に高かった ( $t(80)=3.256, p=.001^{***}$ )。すなわち、セレンディピティ・マインドセット尺度の高群は低群と比べて、陰謀論をより多く信じていることが示された。最後に、幸運信念尺度については、セレンディピティ・マインドセット尺度の高群は低群と比較して、幸運信念尺度において有意に高かった ( $t(80)=5.696, p<.001^{***}$ )。すなわち、セレンディピティ・マインドセット尺度の高群は低群と比べて、「自分はラッキーな人間である」など自分が幸運に恵まれているとより多く信じていることが示された。

表5 SMS尺度※1の高低群における帰属評価項目についての対応のない t 検定結果 ※2 ※3

	SMS※1	N	平均値	標準偏差	t 値 (df)	有意確率(両側)
原因帰属③:統制可能性	低群	54	4.04	1.73	-2.218 (df = 112)	0.029 *
	高群	60	4.73	1.62		
原因帰属⑤:努力(忍耐)帰属	低群	54	5.96	1.15	-2.977 (df = 112)	0.004 **
	高群	60	6.53	0.89		
原因帰属⑨:結果(onset)責任	低群	54	4.63	1.61	-3.446 (df = 112)	0.001 ***
	高群	60	5.57	1.29		
セレンディピティの原因帰属:努力・挑戦・粘り強さ	低群	54	8.93	1.37	-2.818 (df = 112)	0.006 **
	高群	60	9.60	1.18		
非合理現象信奉尺度:超常現象信奉度	低群	56	14.57	4.22	-1.984 (df = 114)	0.050 *
	高群	60	16.10	4.08		
陰謀信念尺度	低群	56	20.71	5.52	-3.256 (df = 114)	0.001 ***
	高群	60	23.93	5.13		
幸運信念尺度	低群	56	18.96	3.49	-5.696 (df = 114)	0.000 ***
	高群	60	22.33	2.87		

※1 SMS=Serendipity Mindset(セレンディピティ・マインドセット) ※2 \*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$ , \*\*\*  $p < .001$

※3 紙幅の都合で、有意差の認められなかった項目は表5から削除された。

## 5. 考察

### 5.1 本研究の分析結果における2つのリサーチクエスチョンへの含意

本研究のミッションは、2つのリサーチクエスチョンに答えることであった。すなわち、リサーチクエスチョン①は、「意図せぬ成功(セレンディピティ)と意図した成功に対してなされた原因帰属(認知)には、どのような違いがあるのか?」と、リサーチクエスチョン②は、「セレンディピティ思考と、幸運信念、超常現象信奉度、陰謀論的信念の間には、どのような関連性があるのか?」であるが、ここでは、本研究の分析結果を簡単に要約しながら、これらのリサーチクエスチョンに答えていきたい。

リサーチクエスチョン①については、全体データを用いて意図せぬ成功としてのセレンディピティと意図した成功が、どのように異なって認知されるのかについて、筆者の専門である社会心理学の原因帰属研究の方法論に基づいて検討した。セレンディピティと意図した成功という2条件を設定し、200~300字程度の短い架空物語(ヴィネット)を提示し、それに対する研究協力者の帰属的反応について検討した結果、実験2条件間における帰属評価項目(付録I参照)においてt検定を行ったところ、いくつかの項目で有意差が認められた。具体的には、①得られた成功が「当初の意図通りだったか」についての認知、②主観的成功の認知、③成功の原因がどれくらい本人の内的原因に起因しているかという内的帰属、④得られた成功がどれくらい予測できたかという予測(予見)可能性、そして⑤成功したときに体験されるポジティブ感情については、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に低かった。それに対して、⑥成功の原因としての努力(忍耐)帰属においては、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に高

い傾向が認められた。以上の結果を整理すると、セレンディピティは、意図した成功と比べて、より意図通りではなく、成功したという感覚が少なく、成功の原因は本人のせいではなく、予測も予見もできなく、成功しても体験されるポジティブ感情が少ない、ということになる。セレンディピティは、その性質上、意図せぬ成功、あるいは予期せぬ成功であるから、意図通りでなく、予測（予見）不可能であると、より認知（帰属）されたことについては十分納得がいくであろう。それ以外については、はっきりとした傾向が認められたとは言い難い。そこで、本研究では、じっくりと多角的な分析を行った結果、幸運信念尺度の高群のデータを用いた際に、最もクリヤーな結果が示されることが見出された。その理由については、確実なことは言明できないが、1つの推測としては、幸運信念尺度の高群は、「自分はラッキーな人間だ」という信念を強く持つ人々であることから、意図せぬ成功としてのセレンディピティや意図した成功というストーリーに対する自我関与（コミットメント）が高いことが示唆される。コミットメントや関心が高ければ、実験刺激として提示された架空物語に対して、より真剣に集中して、より自分事として、よりリアリティを感じながら誠実に回答した可能性がある。このような理由から、幸運信念尺度の高群データを用いた分析において両者（実験2条件）の差異が最もはっきりとした形で認められたのではないかと推測される。

幸運信念尺度の高群データの結果を要約すると、①得られた成功が「当初の意図通りだったか」、②内的帰属項目、③得られた成功の原因がどれくらい本人にとってコントロールできたかという統制可能性、および④予測（予見）可能性については、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に低かった。それに対して、⑤成功の原因がどれくらい安定的（永続的・一時的でない）な原因であるかという安定性次元、⑥得られた成功の原因が運や偶然のせいであるかという「運と偶然」帰属、⑦友達としての喜び体験（嬉しさ）、⑦友達としてのサポート意志については、セレンディピティ条件は意図した成功条件と比べて有意に高かった。これらの結果を整理すると、セレンディピティは意図した成功と比べて、より当初の意図通りでなく、内的原因の結果ではなく、本人によってコントロールできなく、予測も予見もできない一方で、成功の原因はより安定的であり、運や偶然の結果であり、セレンディピティを得た人に対する喜び体験が大きく、サポート意志も高いといえる。全体データの分析結果と比べて、幸運信念尺度の高群データの分析結果の方が、よりクリヤーに結果が出ているように思われる。

では、1つ目のリサーチクエスチョンに答えていくなれば、今回の分析結果から言えることは、①セレンディピティは意図した成功よりも、当初の意図通りではなく、②予測（予見）できないと知覚され、③統制可能性も低く、④わずかではあるが、内的帰属が低く評価される一方で、⑤努力（忍耐）の影響と、⑥運や偶然の影響をより多く受けていると知覚されることが示唆された。すなわち、意図せぬ成功としてのセレンディピティは、①予測可能性・統制可能性が低く、②努力（忍耐）と運や偶然が、その原因としてより多く帰属されることが示された。これは、セレンディピティ研究者クリスチャン・ブッシュによるセレンディピティの定式化（セレンディピティ＝努力×運）を支持する結果であるとい

うことができる。

リサーチクエスション②については、セレンディピティ・マインドセット尺度と超常現象信奉度尺度、超常現象体験度（自己体験）、青年期陰謀信念、幸運信念尺度との間におけるピアソンの相関係数の算出と、セレンディピティ・マインドセット尺度の高低群における  $t$  検定によって検討された。まず相関分析の結果を要約すると、セレンディピティ・マインドセット尺度は、超常現象信奉度、青年期陰謀信念尺度、幸運信念尺度、および超常現象体験度（自己体験）との間で、強い相関ではなかったが、有意な正の相関が認められた。つまり、セレンディピティ・マインドセット(思考)は幸運信念と正の相関が認められただけでなく、これまでその関連性が検討されてこなかった超常現象信奉度や陰謀論的信念とも有意な正の相関があることが示された。

次にセレンディピティ・マインドセット尺度の高低群における  $t$  検定結果を要約すると、セレンディピティ・マインドセット尺度の高群は低群よりも、超常現象信奉度、陰謀論的信念尺度、および幸運信念尺度において、有意に高かったということである。すなわち、相関分析結果からも示されたように、セレンディピティ・マインドセット尺度で高得点を取ると、超常現象信奉度、陰謀論的信念尺度、および幸運信念尺度においても高得点になるということである。その理由として考えられることは、先述したように、陰謀論研究者であるヴァン・プリーゼンが指摘するように、陰謀論的信念の特徴であるパターン認識（一見、全く関連性の無い出来事間に何らかの関連性・因果関係を見出すこと）と類似した特徴を、セレンディピティ思考が共有している可能性が考えられる。確かに、志賀（2019）によるセレンディピティの類型化が指摘するように、多くのセレンディピティは、一見、全く関連の無いと思われていた事柄間に、何らかの関連性が存在することを偶然的に洞察することによって起こるのである。志賀は、セレンディピティが起こる機序として、①偶然は仮説構築（思考）に作用するという閃き型と②偶然は仮説検証（実験）に作用するという発見型という2つのセレンディピティ類型を考案している。

まとめると、「一見無関係に見える点と点の間に関連性を見出す」という点において類似する2つのプロセスである、セレンディピティ・マインドセットと陰謀論的信念との間には、有意な正の相関関係が示されたことから、一般的には否定的に見なされている陰謀論をいたずらに悪魔化して、そのアイデアを排除してしまうことは、セレンディピティを生み出すところのセレンディピティ・マインドセットの可能性の芽までも摘んでしまいかねないという危険性があることが示唆された。

## 6. おわりに

最後に、地域経営研究への含意について述べる。地域社会において、人材、資源、ネットワークを活用して、コミュニティ・イノベーションを起こしていく上で、拙稿のセレンディピティの分析から示唆されるのは、意図せざる結果・施策がイノベーションに結実することへの示唆である。本研究より、計画どおりに実施することばかりが、成果を上げることではなく、「努力と運」すなわち、セレンディピティ研究の成果を入れて、努力とさら

に「意図せざる生起」＝「偶然」に注目し、地域経営における商品・サービス開発、さらに公共政策を展開することの意義である。特に、公共政策においては、意図した計画を最も重視し、その評価においても「意図した計画を完遂することが成功（成果）」であるとする顕著な傾向に対して、政策イノベーションの成果の観点から、理論的実践的な再考を促すものである。セレンディピティの視点からする研究は、民間領域のみならず公共政策や組織開発領域におけるイノベーションの創発プロセスの解明に貢献するものであり、官僚主義に陥らず、コミュニティに根差したコミュニティ・イノベーションの成果促進に寄与すると考える。本研究の結果は、地域経営に対するコミュニティ・イノベーションにおけるセレンディピティが果たす役割という観点からの多様な応用研究への可能性が示唆された。コミュニティ・イノベーションは、既存のセレンディピティ研究が示しているように、地域経営におけるコミュニティ・イノベーションが偶然によってもたらされる側面があり、本研究は、そのことの可能性を踏まえ、認知的側面からアプローチしたものである。他方で、今日国内外で顕著にみられる否定的な陰謀論に加担することなく、暗黙知をカバーした立論と実践が求められる。

もとより、このような研究は始まったばかりであり、特に、コミュニティ・イノベーションの成果に結びつかない官僚制の問題に 대응べく、公共政策及び地域経営の観点から、セレンディピティの理論研究、ケーススタディを重ね深めていくことが今後の課題となる。

## 注

1) ヴィクトール・エミール・フランクル (Viktor Emil Frankl, 1905-1997) は、オーストリアの精神科医、心理学者、ホロコースト生還者であり、著作は多数あるが、代表作は自らのアウシュビッツ強制収容所体験を綴った『夜と霧』(みすず書房刊)である。フランクルは、強制収容所という絶望的な環境の中でも愛する人の存在、生きる意味を見失わなかった者のみが生き残った事実を目の当たりにし、患者が自ら生きる意味を見出す手助けをし、精神障害を克服する心理療法「ロゴセラピー」を考案した。逆説志向 (paradoxical intention) とは、ロゴセラピー技法のうちの一つで、例えば、失敗を恐れるあまり、楽器演奏が出来なくなっている演奏家に、敢えて演奏中に意図的に3回失敗するように実行してもらうことによって、失敗恐怖症を克服してもらうことをユーモアを交えて行うものである。

2) セレンディピティの語源やその後の展開については、クリストフォロ・アルマーノ著 [2007]『寓話 セレンディップの三人の王子 (参考文献①)』における解説に詳しい。「セレンディピティ」は「当てにしないものを偶然にうまく発見する才能」を意味しており、ホレイス・ウォルポールが一七五四年一月二八日にホレイス・マンに書いた手紙の中ではじめて使用した造語であるとされる。その着想のもとになったのが寓話「遍歴セレンディップの三人の王子」であり、セレンディップの王子たちが、偶然との出会いの中でいつも好運な発見をすることにちなんで、この才能を「セレンディピティ」と名づけたのである。

そして、この造語から二百年ほどだって、科学の進歩を研究していた社会学者ロバート・マートンは、科学史上の重要な発見の多くが「偶然の発見」に絡んでいることに気づきこの言葉が注目されることとなる。

3) ロバート・キング・マートン (Robert King Merton, 1910-2003) は、パーソンズと並ぶ機能主義のアメリカ社会学者である。マートンは、社会的機能には既存の社会構造を揺るがす逆機能 (意図せざる結果) があることを指摘し、パーソンズがすべての社会に適用できる統一理論を目指したのに対して、個別の事例と抽象的理論との間の橋渡しとしての「中範囲の理論」の必要性を唱えたことで知られる。マートンの機能分析では、その結果が望ましいものである順機能とそうでない逆機能、その結果が知られている顕在的機能とそうでない潜在的機能の区別が提唱された。たとえば、その結果が知られておらず望ましくない働きをあらわす場合、潜在的逆機能といわれる。また、「例え根拠のない思い込みであっても、思い込んでいるうちに本当にそうになってしまうことがある」という自己成就的予言 (self-fulfilling prophecy) の提唱者としても有名である。セレンディピティとマートンの出会いについては以下のエピソードがある。マートンは別の言葉を調べるために、たまたまオックスフォード英語辞典をパラパラとめくることになる。そしてこの時「セレンディピティ」という言葉に偶然出会うことになる。マートン自身が「セレンディピティの出会い」と表現しているもので、それ以来マートンは亡くなるまで「セレンディピティ」と離れがたい関係となる。この言葉こそ科学の進歩に貢献した概念を説明するためにふさわしいと感じたマートンは一九四五年に「社会学理論」において「セレンディピティ」を紹介し、この言葉が広く科学分野の発見に関わる言葉として使われるようになる。このことから、眠っていた「セレンディピティ」は、マートンによって蘇ったと言える。

4) 志賀敏宏は、イノベーションの創発プロセスにおけるセレンディピティの意義を強調し、日本で最初に、その全体フレームの観点から研究を深化させてきた研究者である。『セレンディピティの構造研究-偶然と必然の相互作用』(志賀、2015) で博士号を取得し、地域経営の視点からは、青森公立大学において同僚であった井上隆一郎や筆者 (遠藤) とともに、「コミュニティ・ビジネスにおける草の根イノベーション」の研究も行ってきた (井上隆一郎・志賀敏宏・遠藤哲哉 [2014] コミュニティ・ビジネスにおける草の根イノベーション, 青森公立大学経営経済研究, 第20巻第1号, 21-35参照)。ただ、残念ながら、その優れた実践・研究能力を多くの方々に惜しまれつつ、途半ばにして2022年秋に死去された。日立、三菱総研を経て、青森公立大学、多摩大学にて研究教育に従事、死の直前まで、イノベーション人材や協働のチーム要件について、セレンディピティの観点から、精魂尽くして研究を深めてこられた。日本において、「イノベーションとセレンディピティ」の研究分野における草創期の第一人者として、今後は「イノベーション創発の人材育成、チームビルディング」など実務面からも、さらに「イノベーション創発プロセスの実践的全体フレーム」の研究を旺盛に行っていこうという矢先ただただに、大変残念である。拙

論は、そのような氏の遺志に捧げ、セレンディピティの観点からコミュニティ・イノベーション研究を深化させていくべく、調査分析を進めたものである。

5) ワイナー原因帰属研究の方法論の詳細については小野寺(2008)(参考文献⑩)を参照。ワイナー(Bernard Weiner, 1935-)は、アメリカの社会心理学者で、成功と失敗の原因帰属と達成動機の間を研究し、達成動機が高いか低いかによって原因帰属の仕方が異なることを示した。のちに、ワイナーは自らの理論を援助行動、攻撃行動、責任判断など、多様な社会的場面に応用し研究を続けた。ワイナーの帰属研究の特徴は、研究参加者に短い仮想物語(ヴィネット)を提示し、それに対する反応を測定し、分析するという方法である。筆者は、このワイナーの原因帰属理論および責任帰属理論を健康や病気に関わる保健医療分野(2型糖尿病研究)に日本で初めて応用して実証的に検討を加えた。

6) 本論考の英文要旨(Abstract)においては、地域経営をCommunity Managementと英表記している。その意図と理由、およびコミュニティ・イノベーションという用語については以下の通りである。本論において、地域経営とは、地域社会の諸個人や経営主体によって作られるシステムである。本論では、地域経営を、英文表記でCommunity Management(コミュニティ・マネジメント)と表現している。コミュニティとは、一般的に共同性と地域性で特徴づけられるが、共通のテーマで結びついた研究コミュニティやSNS上のコミュニティというように、非地域性あるいはネットワーク上の集団や組織も含まれる。現代のコミュニティは、高度の情報ネットワーク社会の中で、遠隔地を含めてコミュニティが形成されている。つまり、遠隔地にあっても人的交わりがあり共通の関心の下で醸成された共同的な関係は、コミュニティを形成し、また地域社会における人的関係を豊かにしたり、さらにグローバルで革新的なコミュニティを形成する。本学会では、地域経営をRegional Management(リージョナル・マネジメント)と訳しているが、本論においてコミュニティのコンセプトを使用するのは、より共同性にウェイトをおき、イノベーションの創発を研究対象にしているからである。そして、本論において、コミュニティ・イノベーション(Community Innovation)とは、このようなコミュニティにおいて、新しい価値や態度に基づいて革新を行っていくプロセスとしている。

## 参考文献

- ①Cristoforo Armeno[2000] a cura di Renzo Bragantini . Peregrinaggio di tre giovani figliuoli del re di Serendippo, Salerno (クリストフォロ・アルメーノ著[2007]『寓話 セレンディッポの三人の王子』 徳橋曜監訳、角川学芸出版)
- ②Christian Busch[2020] Serendipity Mindset : The Art of Creating Good Luck. (クリスチャン・ブッシュ著[2022]『セレンディピティ:点をつなぐ力』土方奈美訳、東洋経済新報社)
- ③Jolley, Daniel et. al.[2021] Measuring adolescents' beliefs in conspiracy theories: Development and validation of the Adolescent Conspiracy Beliefs

- Questionnaire (ACBQ). *British Journal of Developmental Psychology*, 39(3), p499-520.
- ④Darke, P. R., & Freedman, J. L. [1997] The Belief in Good Luck Scale. *Journal of Research in Personality*, 31(4), 486-511.
- ⑤遠藤哲哉 (2019) 「地域経営」における価値創造：新しい自治体経営を志向して. 現代図書
- ⑥初田哲男・大隅良典・隠岐さや [2021] 「役に立たない」研究の未来：ほんとうのイノベーションはゆっくり予想外に始まる. 柏書房
- ⑦Morton Meyers [2007] HAPPY ACCIDENTS: Serendipity in Modern Medical Breakthroughs. (モートン・マイヤーズ著『セレンディピティと近代医学：独創、偶然、発見の100年』小林力訳、中公文庫)
- ⑧村上幸史 [2020] 幸運と不運の心理学. ちとせプレス
- ⑨Ning Chen et. al. [2018] The Relationship Between Belief in Stable Luck and a Propensity for Superstition: The Influence of Culturally Conferred Agency Beliefs. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, vol.49(7), online.
- ⑩小野寺哲夫 [2008] 健康と病気の帰属理論的研究：慢性病患者に対する家族の原因帰属と感情表出 (EE). 風間書房
- ⑪Van Prooijen J-W. [2018] The psychology of conspiracy theories. Routledge
- ⑫Royston M. Robert [1989] SERENDIPITY: Accidental Discoveries in Science: Stephen Kippur. (R.M. ロバーツ [1993] 『セレンディピティ—思いがけない発見・発明のドラマ』安藤喬志訳、化学同人)
- ⑬志賀敏宏. [2019] 「イノベーションにおけるセレンディピティ研究の全体フレームの提言. 『経営学論集』日本経営学会第89集, p. F29-1 - F29-9.
- ⑭志賀敏宏 [2020] セレンディピティの概念吟味による筆者研究の意義の提示. 多摩大学研究紀要「経営情報研究」24, p53-61.
- ⑮Swann W. B. Jr., Gómez A., Seyle C. D., Morales J. F., Huici C. [2009] Identity fusion: The interplay of personal and social identities in extreme group behavior. *Journal of Personality and Social Psychology*, 96, 995-1011.
- ⑯丹治哲雄・青木忠明 [2000] 非合理現象信奉尺度の作成-その信頼性と妥当性の検討(1). 生活科学研究/文教大学生生活科学研究所編, 第22巻, p109-120.
- ⑰Tetsuya Endo [2019] Inbound Strategy of Local Management to Improve Grassroots Innovations: From the Viewpoint of Community Tourism Development (MICE) after the Great East Japan Earthquake 日本経営学会、経営学論集第89集.
- ⑱Tetsuya Endo [2022] The Case of “Rice Paddy Art of Inakadate Village in Aomori Prefecture in Japan under the Covid-19 Pandemic,” *Asian Villages Comparative Studies: Challenges and Opportunities in Pandemic Era*, pp. 41-52.
- ⑲Bernard Weiner [1995] *Judgments of Responsibility: A Foundation for a Theory of Social Conduct*. The Guilford Press



付録 I

【架空物語: セレンディピティ条件】

Aさん(男性19歳)の家には、きれいな写真やイラストが満載の百科事典(全20巻)がありました。Aさんは5歳ごろから、百科事典を見るようになり、次第に、「魚」の生態や種類の中でも特に「うなぎ」に興味を持ちはじめました。そして小学校を卒業するころには百科事典の中身をほとんど全部覚えてしまい、物足りなくなったAさんは、大人向けの本も読み漁り、しまいには専門書まで読むようになりました。いわゆる「さかなくん」のように「うなぎ」博士になりました。なので、中学、高校と理科分野の「生物」はいつも満点で、将来は、絶滅が危惧されているうなぎの養殖について研究したいと考え、たくさん勉強したのですが、第一希望の京都大学には不合格になってしまいました。第二希望も落ちてしまったので、第三希望の近畿大学に行きました。近畿大学は、うなぎではなくマグロの養殖に取り組んでいました。したがって、Aさんは、残念ながら、うなぎ養殖の研究はできませんでしたが、素晴らしい指導者(教授)と仲間に恵まれて、うなぎとは何かも異なるマグロ養殖の研究をゼロから始めていたところ、あるとき、ふと、うなぎの養殖で確立されている100%人工餌の配合技術が、マグロ養殖にも活かせるのではないかと思い、それを試してみたところ、これが当たりし、世界で初めてマグロの100%養殖の成功に貢献しました!(580字)

★ それぞれの項目について、あなたの考えに当てはまるところに○を付けてください。

1	この物語の結果は、どのくらいAさんが <b>意図したもの</b> だったと思いますか? 意図したものでない 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 意図したものであった
2	この物語の結果は、どのくらいAさんが <b>もともと意図していた通りの結果</b> だったと思いますか? 意図していた通りでなかった 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 意図していた通りだった
3	この結果は、Aさんにとって、どのくらい <b>成功(良い結果)</b> だった と思いますか? 失敗(悪い結果)だった 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 成功(良い結果)だった
4	この結果をもたらした原因は、どのくらい <b>Aさんの中(内側)</b> にあった と思いますか? Aさんの以外(外側)にあった 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 Aさんの中(内側)にあった
5	この結果をもたらした原因は、どのくらい <b>一時的、あるいは永続的なもの</b> だと思いますか? 一時的(短期的)なものだと思う 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 永続的(長期的)なものだと思う
6	この結果をもたらした原因は、どのくらいAさんによって <b>コントロールできる</b> もの だと思いますか? 全くコントロールできない 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 とてもコントロールできる
7	より具体的に、この結果をもたらした原因は、どのくらいAさんの <b>能力</b> や <b>才能</b> にあった と思いますか? 能力・才能は全く関係ない 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 能力・才能ととても関係がある
8	この結果をもたらした原因は、どのくらいAさんの <b>努力</b> や <b>粘り強さ</b> にあった と思いますか? 努力・粘り強さは全く関係ない 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 努力・粘り強さはとても関係がある
9	この結果をもたらした原因は、どのくらい <b>運</b> や <b>偶然</b> にあった と思いますか? 運や偶然とは全く関係ない 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 運や偶然と非常に関係がある
10	この結果をもたらした原因は、どのくらいAさんの「 <b>ひらめき</b> 」や「 <b>インスピレーション(直観)</b> 」にあった と思いますか? ひらめき・直観とは全く関係ない 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 ひらめき・直観と非常に関係がある
11	Aさんは、この結果を、どのくらい <b>予測(予見)</b> できた と思いますか? 全く予測(予見)できなかった 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 とても予測(予見)できた
13	Aさんは、この結果を受けて、どのくらい <b>誇り</b> などの <b>ポジティブな感情</b> を体験している と思いますか? 全く体験していない 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 非常にたくさん体験している
14	Aさんは、この結果を受けて、どのくらい <b>ネガティブな感情</b> を体験している と思いますか? 全く体験していない 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 非常にたくさん体験している
15	Aさんは、この結果を受けて、どのくらい <b>後悔(もっと○○するべきだった)</b> している と思いますか? 全く後悔してないと思う 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 とても後悔していると思う
16	<b>あなたがAさんの友達だったと仮定して、</b> Aさんの、今回の結果を知ったとき、あなたはどのくらい <b>喜び・嬉しさ</b> の感情を体験する と思いますか? 喜び・嬉しさを感じない 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 喜び・嬉しさを感じる
17	あなたは、どのくらいAさんを <b>応援(サポート)</b> したい と感じますか? 全く応援したくない 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 とても応援したい

A Study on the Perceptions of Serendipity as an Unintended Success  
- Empirical Research for Promoting Community Innovation -

Tetsuo Onodera

Tokyo Professional University of Health Sciences

Tetsuya Endo

Aomori Public University

**Abstract**

The purpose of this study is to answer the following two research questions.

RQ1: what is the difference between attribution made to serendipity as unintentional success and intentional success? RQ2: What is the correlation between the serendipity mindset and luck beliefs, paranormal beliefs, and belief in conspiracy theories? Also it is considered for the implications this study can provide for community innovation and community management.

The study method was a questionnaire method, and the study participants were 116 students (average age = 36.69 years) from vocational schools in Tokyo. Face sheets, the Serendipity Mindset Scale, the Luck Belief Scale, the Phenomena Belief Scale, and the Adolescent Conspiracy Belief Questionnaire (ACBQ) were used. In addition, employing the methodology in Weiner's attribution theory, a short vignette depicting (1) serendipity story and (2) the intentional success story was devised and presented to research participants.

The statistical analysis showed that (1) serendipity is not as originally intended, (2) perceived as unpredictable, and (3) rated as less controllable than intended success, while (4) the influence of effort (perseverance) and (5) the influence of luck or chance are rated higher. In addition, significant positive correlations were found between the Serendipity Mindset Scale and the Paranormal Belief Scale, the Adolescent Conspiracy Belief Scale and the Luck Belief Scale.

The results of this study suggest a potential contribution of the concept of serendipity to community management and community innovation.

Keywords: serendipity, community innovation, community management, conspiracy theories